

食品容器包装のリサイクルに関する懇談会（第1回、第2回）の主な意見の整理

大項目	中項目	主な意見
1. 全体的事項	① 容り法の目的	・バイオプラスチックの導入促進のため、低炭素社会の推進を目的に入れてはどうか。
	② 容り法の対象範囲	・役務に伴うプラスチック、製品プラスチックを対象にすることを検討してはどうか。
	③ 制度の普及・啓発	・消費者に容り制度や分別手法をもっと普及啓発すべきではないか。 ・その際、事業者、自治体、消費者の主体間連携をさらに進めていくべきではないか。
	④ 容り法の評価	・市民の分別努力を含め、容り法の成果を評価すべきではないか。 ・数値目標を設定してはどうか。
2. 排出抑制	⑤ 事業者の容器包装削減努力の推進	・食品業界として中小企業向けの包装の適正ガイドライン策定が必要ではないか。 ・事業者の環境配慮設計を進めていくためのプロジェクトを立ち上げてはどうか。
	⑥ 排出抑制に対するEPRの有効性	・排出抑制に有効なのは、EPRか消費者教育か。
3. 再商品化	⑦ プラスチック	・リサイクル費用の9割を占めるプラスチックのリサイクルを将来的にどうしていくのか。 ・「再商品化」の定義を検討すべきではないか。 ・汚れのひどい物は、分別回収から外し、熱回収に回すべきではないか。 ・レジ袋を再商品化義務の対象から外してもらえないか。
	⑧ PETボトル	・PETボトルは、アルミ缶と同様に再商品化義務の対象から外すことを検討してはどうか。 ・分別回収したリサイクル資源の海外流出を防ぐことが必要ではないか。

大項目	中項目	主な意見
4. 分別収集	⑨ 効率的な分別・回収方法	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル適性に応じた分別・回収方法を検討すべきではないか。 ・サプライチェーン全体で安価で簡単な回収方法を目指すべきではないか。 ・識別マークがわかりにくく、簡単で実効性のある表示を検討すべきではないか。 ・小売店舗における店頭回収を容易法に位置づけてもらえないか。 ・回収の努力をしている小売業者に委託料金の軽減などのインセンティブを検討してもらえないか。
	⑩ 市町村の費用負担	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の容易リプラ分別収集の費用負担は大きく、税金で負担していることから、拠出金制度で負担してもらえないか。
5. その他	⑪ ただ乗り事業者対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな業種を含め、フリーライダーが存在するのではないか。 ・委託料金に関する遡及時効が無い中、帳簿の保存期間である5年よりも前の支払いをどうすべきか。
	⑫ 委託料金の徴収方法	<ul style="list-style-type: none"> ・フランチャイズチェーンにおける徴収方法の簡略化、効率化を検討してもらえないか。 ・少額を負担する店舗から委託料金を徴収するのは非効率ではないか。